

表紙のこぼ

写真と文：吉田真也



ずっしりとした重量感と甘い香りで高知県の特産かんきつとして有名な「土佐文旦」。温暖で降水量の多

い高知ならではの農産物で、収穫最盛期を迎える12月後半から1月には「山から甘い香りが漂う」と言われ、かんきつ類の王様とも言われています。

山本和哉さん(26)・眞夕さん(26)は農業大学校で知り合った初々しい新婚のご夫婦。和哉さんの父・雄三さんはJA職員で、その背中を見て育った和哉さんは卒業後に祖父の盛郎さんになって、土佐文旦やショウガ、ハウスで小夏を栽培。眞夕さんは地元のお菓子会社に就職後、春から和哉さんと一緒に土佐文旦の栽培に奮闘中です。

JAとさし営農指導員の舩屋公貴さんが「よい土佐文旦を作るには積算温度と水の管理が重要」と言うように、急斜面の畑は日当たりと水はけがよく土佐文旦の栽培にはおあつ

らえ向き。収穫後は「野囲い」と呼ばれる^{むろ}室で追熟させて、酸味と甘みのバランスのとれた土佐文旦が出来上がります。急斜面は慣れない人には危険ですが、和哉さんは軽々と斜面を登り降りしていきます。日頃の農作業に加え、ソフトボールと地元の消防団で鍛えた和哉さんが、軽やかに斜面を登っていき笑顔の眞夕さんの手を取り引き上げていく姿と、日差しを受けて斜面に輝く土佐文旦がとても印象的でした。



JAグループ 共通コンテンツ

食・農・地域の暮らしを支えるJAの存在意義や取り組みを紹介するJAグループ共通コンテンツ(JA新聞連『JA広報通信』にて提供中)。今年度は、「変わるJA 広がる地域のきずな」をテーマに毎月Q&A方式で解説します。JA広報誌への掲載等により、組合員や地域住民への情報提供資料として、ぜひご活用ください。

変わるJA 広がる地域のきずな

監修=広島大学
助教 小林元

Q、JAは未来へ食と農をつないでいくために何をしているの？

A、地域農業の活性化はもちろん、食や農への理解醸成に努めています。

JAは総合力を発揮して、地域の実態に合わせたさまざまな施策を通じて、地域農業を支えています。JA自己改革を通じて、農業者の所得増大をすすめることで、農業をより魅力あるものとしていきます。また、地域の農業を次世代につなぐために、労働力支援や経営管理支援、事業継承や新規就農の支援などを積極的に展開しています。

とりわけ、多くの国民にとって関心の高い「食」を切り口とし、農業・農村について理解を深める取り組みを進めます。支店や直売所を中心とした農業祭や農業体験、料理教室などのイベントなどにより、「食」の大切さや国産農畜産物の魅力、農業生産の営みなどを地域の皆さんに伝えています。地域の農畜産物を購入して食べる人、体験型農園や援農ボランティア制度を活用して農産物を実際に作る人など、農業振興の応援団を増やしています。

また、今年から、10月2日が「直売所(ファーマーズマーケット)の日」に制定され、JAとして生産者と消費者の架け橋になる直売所の活性化を進めています。

作って 応援

- 体験型農園
- 直売所への出荷
- 援農ボランティア
- 家庭菜園



食べて 応援

- 直売所で地元産農畜産物を購入
- 農業応援金融商品(農業応援貯金)
- 農業まつり、支店まつり
- 農業体験イベント
- 直売所でのイベント



耕そう、大地と地域の未来。